

毎日社会福祉顕彰

文京の「青少年健康センター」が受賞 悩める若者と家族支援 ／東京

毎日新聞 2016年9月16日 地方版



資料に目を通す斎藤会長（左）と時盛事務局長＝文京区小日向の青少年健康センターで

精神医学や心理学の専門家らでつくる公益社団法人「青少年健康センター」（文京区小日向）が福祉の向上に尽くした個人や団体をたたえる「第46回毎日社会福祉顕彰」を受賞した。設立から約30年にわたり、悩める若者と家族を支援し続けてきた。近年は文京区、世田谷区、台東区から、若者の社会参加応援事業を受託している。斎藤友紀雄会長（80）は「地道な活動が信頼を得た」と手応えを口にした。

引きこもりや不登校が社会問題化し始めた1980年代。解決策として、その子どもたちを集団生活や体罰で更生させようとする動きが出始めた。これに対し、センター初代会長の故稲村博・一橋大教授は専門的な支援の必要性を訴え、関係者とともに85年に設立した。

当事者に寄り添うため、88年には若者の居場所として文京区にデイケア施設の名荷谷クラブを開設。演劇やスポーツでコミュニケーションを学び、協力企業での短時間就労体験を通して少しずつ自信を取り戻させた。施設の「卒業生」同士が結婚した例もあり、斎藤会長は「うれしかった。今後こういう自立するケースが増えると思う」と期待する。

思春期特有の問題と見られていた引きこもりは、今では40代以上へも拡大。高齢化した家族からの相談も少なくない。時盛昌幸事務局長（40）は「今後は複数の分野の専門家、地域ボランティアらによる立体的な支援が必要」と指摘。「我々の仕事は若者の未来をつくること。こんなにやりがいのある仕事はない」と胸を張る。

また、斎藤会長は「いつの時代でも若者は心の危機に直面しやすい。自殺予防は永遠の課題」として、12年から自殺予防の無料電話相談「クリニック絆」（03・5319・1760）を始めた。希望すれば、精神科医とも話せることが特徴だ。相談は月～金曜午後1～6時、精神科医への相談は土曜午後2～6時。【谷本仁美】

悩める若者と家族支援

文京の「青少年健康センター」
毎日社会福祉顕彰受賞

資料に目を通す斎藤会長(左)と時盛事務局長
―文京区小日回の青少年健康センターで



精神医学や心理学の専門家でつくる公益社団法人「青少年健康センター」(文京区小日向)が福祉の向上に尽くした個人や団体をたてる「第46回毎日社会福祉顕彰」を受賞した。設立から約30年にわたり、悩める若者と家族を支援し続けてきた。近年は文京区、世田谷区、台東区から若者の社会参加応援事業を受託している。斎藤友紀雄会長(80)は「地道な活動が信頼を得た」と手応えを口にした。引きこもりや不登校が社会問題化し始めた1980年代。解決策として、その子どもたちを集団生活や体験で更生させようとする動きが出始めた。これに対し、センター初代会長の故稲村博・一橋大

教授は専門的な支援の必要性を訴え、関係者とともに85年に設立した。当事者に寄り添ったため、88年には若者の居場所として文京区にデイケア施設の若荷谷クラブを開設。演劇やスポーツでコミュニケーションを学び、協力企業での短時間就労体験を通して少しずつ自信を取り戻させた。施設の「卒業生」同士が結婚した例もあり、斎藤会長はうれしかった。今後こうした自立するケースが増えると思う」と期待する。思春期特有の問題と見られていた引きこもりは、今では40代以上へも拡大。高齢化した家族からの相談も少なくない。時盛幸事務局長(40)は「今後は複数の分野の専門家、地

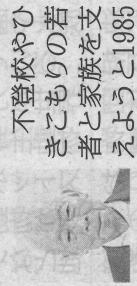
域ボランティアによる立体的な支援が必要」と指摘。「我々の仕事は若者の未来をつくること。こんなにやりがいのある仕事はない」と胸を張る。また、斎藤会長は「いつの時代でも若者は心の危機に直面しやすい。自殺予防は永遠の課題」として、12年かから自殺予防の無料電話相談「クリニック絆」

(03・5319・1760)を始めた。希望すれば、精神科医とも話せることが特徴だ。相談は月・金曜午後1〜6時、精神科医への相談は土曜午後2〜6時。【谷本仁美】

第46回毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する第46回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)を、推薦された43件の中から次の3件に贈ります。賞牌(しよっぱい)と賞金(各100万円)の贈呈式は10月21日(金)午後1時から、東京都千代田区の如水会館で開きます。(28面に受賞者のプロフィール)◇公益社団法人青少年健康センター(斎藤友紀雄会長―東京都文京区)◇家常恵さん(元大阪府中央子ども家庭センター所長―大阪府大東市)◇特定非営利活動法人地域活動支援センターおおぞら(植村ゆかり理事長―鳥取県米子市)

公益社団法人
「青少年健康センター」
―東京都文京区
斎藤友紀雄会長(80)



ひきこもりの支えに

毎日社会福祉顕彰 受賞者の喜びの声

不登校やひきこもりの若者と家族を支えようと1985年、精神医学や心理学の専門家らで設立。3年後に居場所となるデイケア施設を設置した。斎藤さんは2004年に会長に就任。「いのちの電話」の活動経験を生かした自殺予防の電話相談「クリニック絆」も開設している。自治体から受託する、若者の社会参加応援事業も増えており「各方面から期待されている。専門スタッフの養成に力を入れたい」と話す。